

2021年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

この質疑応答集は、11月26日（木）に開催した決算説明会にてご出席の皆様からいただいたご質問を記録したものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 下期業績予想について、メディカル・テープ・海外はそれぞれのくらの水準を想定しているか？

A1. 前年同期比として、メディカル事業のロイヒつぼ膏TMは当面インバウンドが回復しない想定のためマイナス、メディカル事業のその他、テープ事業、海外事業については前期の後半から消費増税とコロナ影響による下落があったため、横ばいまたはプラスを想定しています。

Q2. オープンイノベーション「ニチバンアクセラレーター2020」の事業化の時期、金額などをどのように見込んでいるか？

A2. 現在は募集案件を精査している段階です。これから数ヶ月間で候補を絞り込んだうえで、内容のブラッシュアップと協業スキームを策定します。案件または協業するスタートアップ企業の違いによって時期や規模感に大きなバラツキがあり、現時点ではご説明が難しいため具体的な回答は控えさせていただきます。

Q3. 基幹業務システム投資はどのような内容か？投資規模はどのくらいか？

A3. 基幹業務と言われる「販売・生産・会計」について、現行は別のシステムを使用していますが、これを一本化してデータ処理と業務の標準化を図ります。投資金額は今後システム構築の進捗をみて、適切なタイミングでお知らせいたします。

Q4. 上期実績と下期見込の利益水準の違いについて、増収以外の主な要素は何か？

A4. 上期に実施を見送ったテレビCMを始めとするマーケティングコストの増加等が大きな要素になります。

Q5. 今回の配当予想は配当性向が高水準となっているが、今後の配当の考え方はどのようなものになるか？

A5. 今回は、コロナ影響などによる非常に厳しい事業環境と利益水準の低下ということを踏まえ、安定的な配当とすることを重視しました。適切な配当の水準については今後も継続的に検討します。

Q6. 下期および来期の設備投資予定はどのくらいか？

A6. 下期は上期と同額程度か少し増加する通しです。来期は基幹システム構築のほかに、メディカル事業関連設備の投資を予定しており増加する見通しです。

Q7. テープ事業の収益性改善は今後も継続するか？

A7. 今期の収益水準を継続する見通しです。今後も利益の維持、向上に向けて、引き続き事業の効率化を図ります。

Q8. 中国の越境 EC はどのような進捗、成果となっているか？

A8. 9 月に旗艦店を出店し、Web プロモーション施策を開始しています。現時点の販売実績は少額です。今後、越境を含めた EC のプロモーション施策として、サイトを利用されるお客様をより効果的に引き寄せる施策を検討し、実施していきます。

以上